# 8人が登校再開

## 医療的ケア確保 保護者ら喜ぶ

看護師6人が一斉辞職し、医療的ケアの必要な子どもの一部が通学できなくなっている鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市江津）は11日、隣接する県立中央病院などからの看護師の派遣を受けてケアを再開した。「学校に通わせられてうれしい。子どもも喜んでいる」と胸をなで下ろす保護者の声も聞かれた一方、県教委と学校は、新たな看護師の確保とともに、教員や保護者、看護師を含めた連携の在り方の見直しに迫られる。

### 鳥取養護学校

この日は医療的ケアが必要な生徒・児童33人中25人が登校。うち8人が看護師派遣によって登校を再開し、17人は保護者が付き添った。12日はさらに8人が登校する予定だ。

登校を再開した経管栄養などの医療的ケアが必要な男児の保護者は「子どもは学校が大好き。今朝は声を上げて喜んだ」とほっとした様子。「（同校でなければ）うちの子は通えないのでうれしい」と神妙な表情で話した。

県立中央病院、県看護協会、県立白兎養護学校（同市伏野）から看護師が派遣され、1日3人体制で対応。33人全員のケアを行うには6～8人の看護師が必要とし、同校は早急に充足数の採用を目指すが、県教委特別支援教育課の足立正久課長は「看護師の確保が最優先だが、確保するだけでは問題の解決にはならない」と話す。

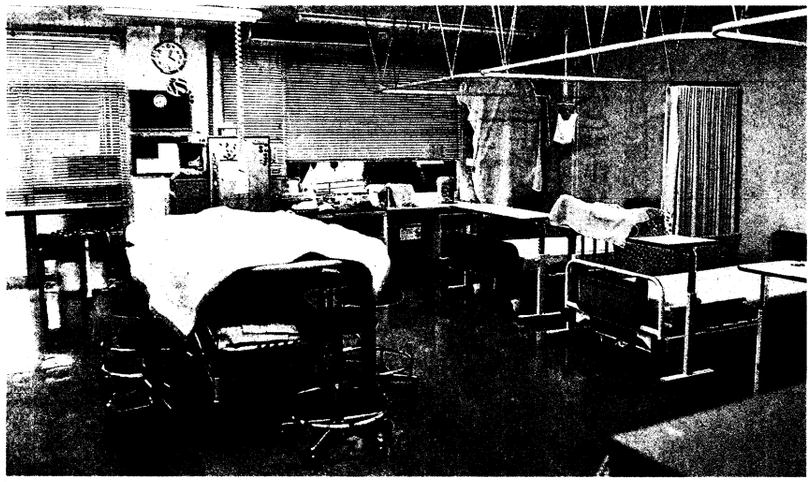
辞職した看護師は全員非常勤職員。1日5人が勤務し1人が休む体制で、点滴や経管栄養、たんの吸引など医療的ケアを行っていた。

県教委によると、子どもへの対応などを協議する校内の個別ケース会議は、看護師が退勤した放課後に教職員のみで実施しており、看護師は決まったことを養護教諭などを通して伝えられるだけだった。県教委の聴き取りには「孤立感、疎外感があった」と話し、医療的ケアの必要な子どもが増えて多忙感があることも訴えていた。

スクールカウンセラーが週1回程度学校を訪れて非常勤も含めた職員の相談を受けるシステムがあるが、「看護師に周知されていたかどうかは分からない」（県教委）という。

11日に会見した野坂尚史校長は「校内のチームワークの不十分さ」を釈明。学校看護師や外部識者の意見を聞くため具体的な体制を整え、事態の引き金となった保護者からの要望についても、受付窓口を整備する方針を示した。

県教委は「コミュニケーションを密接に取り、医療的ケアを含め、チームとして子どもたちの教育にあたることが大切。保護者の要望も組織としてきちんと受け止め、保護者と認識を共有し、時には理解を求めていくよう体制を整えたい」としている。



鳥取県立鳥取養護学校内のケアルーム。医療的ケアの必要な児童・生徒はこの部屋でケアを受ける＝11日、鳥取市江津

## 看護師の増員急務

### 連携の在り方見直しへ

# 命の危険感じた

## 指摘の保護者心境語る

**保護者一問一答**

看護師が辞職理由の一つに挙げた「厳しい指摘」をしたとされる保護者が11日、本紙の取材に答えた。

**―いつ、看護師のどんなケアに意見したのか。**

「5月20日ごろだったと思う。ケアの時間の遅れなど、3～4時間の間に3回もミスをした。決まった時間から8分遅れた時は、約15分間低血糖の状態になった。子どもの顔は青く、先生の腕の中で気を失ったような状態になってしまった。子どもの命の危険を感じた」

「過去の経験から、少しの遅れでも命に関わると伝えていたにもかかわらず、なかなか対応してもらえなかった。看護師は3人その場にいたのに。子どもが危ない目にあって怒らない親がいるだろうか」

「中には『看護師に何か言うと、子どもがどんな扱いを受けるか分からない』という保護者もいるが、うちは命に関わる。譲れない」

**―学校などの対応は。**

「（ケアのミスについて）県教委から『学校事故に値する』と伝えられたが、学校側から謝罪はない。保護者たちに走っている。悪いことをしたという認識はないのでは」

**―今後の対応で望むことは。**

「学校は看護師をかばって事実を伝えないことがあった。うそのない学校にしてほしい。技術のしっかりした看護師を確保するのも、養護学校の今後の課題だと思う。今回の事態で一番傷ついているのは子どもと保護者。子どもたちが安心して通える状態になることを望んでいる」

## 問題防ぐ研修「不十分」

**校長一問一答**

鳥取県立鳥取養護学校で看護師6人全員が一斉辞職し、医療的ケアが必要な児童・生徒が通学できなくなっていた問題について、野坂尚史校長に聞いた。

**―今回の問題をどう受け止める。**

「学校で医療的ケアができず、迷惑を掛けている皆さんにおわびしたい。医療的ケアが必要な子どもたちで登校できていなかった児童・生徒16人全員が12日から登校できる。ただ、それ以外の子どもたちは保護者同伴の登校を引き続きお願いしなければならない。学校看護師の採用に務め、医療的ケア体制を速やかに拡充する」

**―採用する学校看護師は6人か。**

「校内だけでなく、校外での行事なども考えると、8人は必要。看護師の派遣は夏休みまでと言われている。医療的ケアのできる学校看護師の専門性や力量はもちろんだが、まずは人数確保。6月末までに何人かでも採用したい」

**―校内の体制整備は。**

「問題をチームワークで防ぐ研修が十分でなかった。学校看護師が安心して働け、意見できる体制をつくりたい。保護者の要望が学校看護師へ直接いかないよう受け付ける窓口を設ける。学校看護師や外部識者の意見を聞く場を持つなど、具体的な体制を整える」

**―厳しい指摘をしたとされる保護者と学校は和解できたか。**

「そこはまだ不十分だと思う」